



2022年2月14日

各位

会社名 ソースネクスト株式会社  
代表者 代表取締役社長兼 COO 小嶋 智彰  
(コード番号 4344 東証第一部)  
問合せ先 取締役常務執行役員兼 CFO 青山 文彦  
電話番号 03-6254-5231  
会社名 ソースネクスト株式会社

### 業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2021年8月13日に公表いたしました2022年3月期の業績予想を修正いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

#### 1. 業績予想の修正

2022年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

|                          | 売上高<br>(百万円) | 営業利益<br>(百万円) | 経常利益<br>(百万円) | 親会社株主に帰属する<br>当期純利益<br>(百万円) | 1株当たり<br>当期純利益<br>円 銭 |
|--------------------------|--------------|---------------|---------------|------------------------------|-----------------------|
| 前回発表予想 (A)               | 15,050       | 104           | 100           | 36                           | 0.27                  |
| 今回修正予想 (B)               | 10,492       | △1,769        | △1,736        | △1,741                       | △12.86                |
| 増減額 (B - A)              | △4,558       | △1,873        | △1,836        | △1,778                       |                       |
| 増減率 (%)                  | △30.3%       | -             | -             | -                            |                       |
| (ご参考) 前期実績<br>(2021年3月期) | 12,851       | 540           | 452           | 191                          | 1.40                  |

#### 修正の理由

新型コロナウイルス感染症の再拡大により、外出規制が長期化し、国境をまたぐ人の往来の回復タイミングも不透明な状況が強まったことから、当該状況が当社販売環境へ与える影響を考慮し、2022年3月期通期連結業績予想を下方修正いたします。

2021年8月13日にお知らせした修正予算では、新型コロナウイルス感染症の感染者数がワクチン接種の進捗に伴って低下していき、12月下旬以降はインバウンド需要及び海外旅行需要が回復基調に転じ始めるシナリオで修正予算を組んでおりました。しかしながら、12月にオミクロン株流行により新型コロナウイルス感染症が再拡大し、感染者数は増加を続けております。このような先行き不透明な状況が強まる中、当該影響を踏まえ、当期においては家電量販店での売上は回復しない見込みに修正いたしました。家電量販店チャネルの全体的な数字を見直した結果、当チャネルにおける通期連結売上高(予想)を24億円引き下げました。

これに加えて、当期下期に予定していた新製品ハードウェアについて、開発の遅れから発売を来期初にずらしたこと、およびAI通訳機「POCKETALK(ポケットーク)」や360度webカメラ「Meeting Owl Pro(ミーティングオウルプロ)」を中心とする、その他のハードウェア製品についても、長引く外出規制と新型コロナウイルス感染症の再拡大により修正予算時の予想よりも足元販売実績が鈍化していることから、自社オンラインチャネル及び法人営業チャネルにおける連結売上高(予想)を14億円引き下げました。

そのほか、通期の販売費及び一般管理費については見直しを行いましたが、2022年1月末に発売

したリモート会議等で翻訳機能が使えるパソコンソフト「ポケトーク字幕」などを中心に、今後を見据えた新規製品やサービスの開発、販売促進は手を緩めることなく推進する予定で、結果として連結営業損失（予想）は17.6億円を見込んでおります。

当該連結営業利益の減少に伴い、連結経常損失（予想）を17.3億円、親会社株主に帰属する当期純損失（予想）を17.4億円に下方修正いたします。

依然として、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響から足元の事業環境は厳しい状況が続いております。しかしながら、「ポケトーク」をとりまく翻訳や通訳に関するニーズがなくなったものではなく、むしろ医療機関や、教育機関、またオンライン会議等、異言語間でのコミュニケーションの必要性は高まっており、経済活動が日本に比べて活発である米国では、内需中心のさなかでも、「ポケトーク」販売開始以降、過去最高の売上高となり、今後も販売が伸びることが予測されます。また、ハイブリッドワークなど働き方に関する改革は今後も注目されていくと考えており、コロナ禍を経た後を見据え、「ポケトーク」や「KAIGIO（カイギオ）」シリーズの新規開発・サービスは引き続き注力して参ります。2022年2月1日には新会社「ポケトーク株式会社」を新規設立いたしました。国境をまたぐ人の往来が制限された状況下でも「ポケトーク」の事業を強化し、今後の海外を中心とした新たな市場開拓を推進して参ります。また、当期の発売を見送った「ハードウェア」製品をはじめ、今後も市場ニーズに合致したソフトウェア、ハードウェア、IoT製品を市場に投入し、新たな市場の創出を行って参ります。これら製品をスピーディに提供していく方針に変更はなく、今後も市場環境の変化に柔軟に対応した製品戦略と経営基盤を構築して参ります。

※上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。

## 2. 配当予想の修正

|                        | 年間配当金  |       |       |
|------------------------|--------|-------|-------|
|                        | 第2四半期末 | 期末    | 合計    |
| 前回予想<br>(2021年8月13日公表) | 0円00銭  | 0円04銭 | 0円04銭 |
| 今回予想<br>(2022年2月14日公表) | 0円00銭  | 0円00銭 | 0円00銭 |
| 当期実績<br>(2022年3月期)     |        |       |       |
| 前期実績<br>(2021年3月期)     | 0円00銭  | 0円21銭 | 0円21銭 |

### 配当予想修正の理由

当社は、将来にわたり業績の向上を図ることが企業価値を高め、株主の皆様のご期待に応えることにつながると考えており、業績、配当性向及び中長期の企業成長に必要な投資額などを総合的に考慮して、利益配分を行なっていくことを基本方針としております。

この方針のもと、連結配当性向を15%（前期連結配当性向15%）としており、2022年3月期の業績予想の修正に伴い、配当予想も修正いたしました。連結業績の詳細につきましては、同日付で公表した「2022年3月期 第3四半期決算短信」をご参照下さい。

※上記の予想は、現時点における入手可能な情報に基づいており、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上